

令和7年2月6日

筑紫野市議会

議長 赤司 泰一 様

公明党筑紫野市議団 宮崎 吉弘

令和6年度 国営 東京臨海広域防災公園防災体験学習視察報告書

公明党筑紫野市議団 防災体験学習施設視察について、下記のとおり報告します。

記

1. 視察日

令和7年2月6日（木）10時から

2. 視察先及び研修項目

国営 東京臨海広域防災公園での体験学習

1階：防災体験ゾーン 2階：防災学習ゾーン での体験学習

3. 視察者

公明党筑紫野市議団 宮崎 吉弘

山本 加奈子

坂口 勝彦

4. 内容 別紙のとおり

国営 東京臨海広域防災体験学習視察報告書

学習視察日 令和7年2月6日

住所：東京都江東区有明3丁目8番35号

【概要】

東京臨海広域防災公園は、東京都江東区に位置する防災対策のための多目的公園です。1995年に設立され、地震や津波などの自然災害に備えるための施設が整備されています。この公園は、災害時の避難場所や訓練の場としてだけでなく、地域住民や観光客の憩いの場としても利用されている。公園は約16ヘクタールの広さがあり、自然環境が整備されている。多様な樹木や花々が植えられており、四季折々の風景を楽しむことができる。また、公園内には散策路や広場があり、訪れる人々がリラクセスできるスペースが提供されています。防災公園の設計には、地域の特性や災害リスクを考慮した工夫が施されています。特に、大規模な地震が発生した際に迅速に避難できるよう、広い避難スペースが確保されています。また、津波に対する備えとして、高台に位置するエリアも設けられています。この公園の最大の特徴は、防災教育の場としての役割です。定期的に防災訓練やワークショップが開催されており、地域住民が災害時の対処法を学ぶことができます。これにより、地域全体の防災意識が高まり、コミュニティの絆も強化されています。東京臨海広域防災公園には、さまざまな防災関連の設備が整っています。公園内には、地震体験車や津波体験施設などがあり、実際に災害を疑似体験することができます。これにより、訪れる人々は災害の恐ろしさを身をもって感じることができ、よりリアルな防災意識を持つことができます。また、公園内には災害情報センターも設置されており、リアルタイムで災害情報を提供しています。情報の提供は非常に重要であり、広場や体育館などの多目的施設もあり、地域のイベントやスポーツ活動に利用されている。これにより、防災と地域活性化が同時に実現される場として注目されている。公園内の施設は、災害時だけでなく、日常生活においても利用できるように設計されている。こうした施設は、地域の人々にとって重要な憩いの場となっている。東京臨海広域防災公園では、地域住民や学校向けに多様な防災教育プログラムが実施されています。これらのプログラムは、地元の防災専門家やNPOと連携して行われ、実践的な内容が特徴で、子どもから大人まで、幅広い年齢層の参加が可能になっており、プログラムの一環として、避難訓練や応急手当の講座が定期的に行われている。参加者は、災害時の行動指針や安全な避難方法を学ぶことができ、実際に体験することで理解を深める。特に、子どもたちにとっては、楽しく学べる貴重な機会となっている。また、防災教育プログラムは、訓練を通じて知り合った人々が地域の防災に対する意識を共有し、助け合う関係を築くことができる。このようなコミュニティの強化は、災害時における迅速な対応につながっていて、学校と連携したプログラムも充実しており、子どもたちの防災意識を高めるための特別授業が行われている。これにより、

次世代の防災リーダーを育成することを目指している。教育を通じて、防災の重要性が広がり、地域全体の安全性が向上することが期待されている。この公園は単なる防災施設ではなく、地域の人々が集まるコミュニティの中心として機能している。地域住民の意見を反映したイベントやプログラムが企画されており、参加者のニーズに応じた内容が提供されている。地域の学校や企業とも連携し、防災イベントやワークショップを共催することが多くなっている。これにより、地域全体での防災意識の向上が図られています。企業の協力を得ることで、より充実した内容のプログラムを提供できるようになっている。また、公園内で開催される地域イベントは、地域住民同士のつながりを深める機会となっています。文化祭やスポーツイベントなどが定期的に行われ、参加者は楽しい時間を過ごすことができます。これにより、防災に対する関心が高まるだけでなく、地域の絆も強化されている。さらに、公園は地域の防災拠点としても機能しています。災害時には、避難所として利用されるため、地域の防災計画の中で重要な役割を果たしています。このように、東京臨海広域防災公園は、地域との連携を通じて、より安全な社会の実現に寄与している。東京臨海広域防災公園は、今後も地域の防災拠点としての役割を果たし続けることが期待されています。災害リスクが高まる中で、地域住民の防災意識をさらに高めるための取り組みが求められている。

【学習視察目的】

国土交通省直轄の東京臨海広域防災公園の体験型施設で学習やゲーム等を通して平時からの防災意識の向上を図るため。

【まとめ】

一階フロアの災害体験ゾーンでは、EVの中で地震となった場が想定されていて、防災クイズに回答をしながら広場に脱出する体験をし、2階災害学習フロアでは、自助体験学習で様々な防災グッズの展示があったり、映像ホールでは首都直下型地震が起きた場合に想定される映像を見ることができ、対岸の火事ではないが、自分事として防災対策をしなければならぬと考えさせられた。

【学習視察状況】

1F 体験施設



1 東京直下72h TOUR

- ★ 地震発生後72時間の生存力をつかる、体験学習ツアーです

2 津波避難体験コーナー

- ★ 津波の特徴を知ることができます

3 管理センター

- 公園の管理事務所です

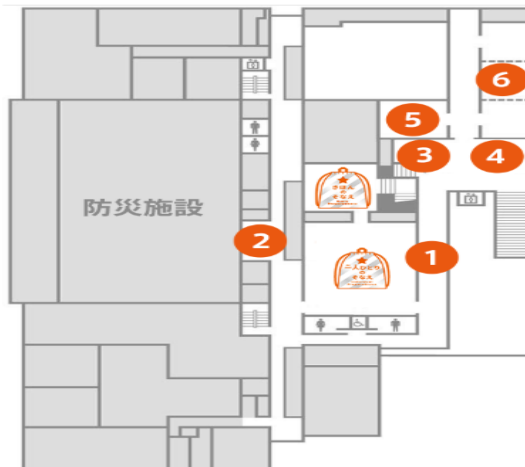
4 受付

- 72h TOURの体験受付です

5 そなえカフェ、休憩スペース

- 防災グッズ等を販売する売店や休憩用のベンチなどがあります

2F 学習施設



1 自助体験コーナー

- ★ グッズ展示で災害へのそなえを知ることができます

2 オペレーションルーム見学窓

- ★ 地震発生時の国の拠点を学ぶことができます

3 首都直下地震特設コーナー

- ★ 首都直下地震をわかりやすく解説するコーナーです

4 事例に学ぶ自助の知恵コーナー

- ★ 最近の大地震で発揮された自助の知恵を紹介しています

5 映像ホール

- ★ 首都直下型の大地震が起きた場合に何が起こるのかを伝える映像ホールです

6 レクチャールーム

- ★ 主として「防災」をテーマにした講習会や展示会、行催事が行われます

【1階災害体験ゾーン】



【2階災害学習ゾーン】

